

入籍直後に初優勝

自ら人生の節目を祝う

3オーバー 75

大阪府在住、宅建士の資格を持つ福岡市出身の中村いくみ（26歳、大博多）



笑顔がはじける。「1回くらいは勝ちたかったので良かった。でも、びっくりです。後半は3連続ボギーもあったし、やばいかな、と」。前半のアウトはしのいだ。5番で第2打を20cmにつけてバーディー。この『虎の子』の1アンダーを必死に守った。1パットパーを4ホールで前半35。中村本人の言葉を借りると「耐えたゴルフ。拾い拾いのパーでした」。インではショットが曲がり、11番と14番からの3連続ボギーでバーディーなしの40。ハーフのアンダーは中村1人だけで、アウトの35が効いた。

現在は大阪府の大手の不動産会社に勤務する。2年前、仕事の合間を縫って1日3時間の

猛勉強を半年続けて宅建士の資格を取得。ラウンドは社内コンペが主。いわゆる月イチゴルフファーである。コンペの際には同僚から「うまいので、あんたは別。僕のスイングを見て」などと即席レッスンの依頼が多いという。大会に出場する際には集中的に練習するが、普段は仕事が忙しくゴルフどころではない。今回も練習ラウンドは試合前日の1度だけ。福岡市内出身だが、会場となった太宰府GCは回ったことがなく、2度目のラウンドで栄冠を手にした。「試合は引き締まって楽しいですね」とゴルフに対する新鮮な気持ちが好結果につながったのだろう。

ゴルフは両親の影響で10歳から始めた。小学生の頃から大博多の研修会で揉まれ、高校は福岡市内の沖学園。個人的には大きなタイトルには縁がなく、高3の九州ジュニアの初日に背中をひどく痛めるアクシデントに見舞われたこともあった。一時はプロを目指していたものの、「厳しい道、自分には無理だなあ」とスポーツ推薦で関西学院大に進学。大学4年時には関西学生ゴルフ連盟の委員長と日本学生ゴルフ連盟の副委員長を兼務する。「試合の交渉をしたりしましたし、運営がどれだけ大変か分かりました。おかげで（卒業後の）仕事でも『大丈夫』という自信になりました」。中村にはかけがえのない財産となった。

学連に携わったことで新たな出会いも生まれ、その彼と8月4日に入籍。結婚式は来年5月の予定だが、入籍したその月に優勝というおめでたさ。自らの手で祝福したのである。「全国大会ではトップ10に入って、シードを取りたい」。11月の日本女子ミッドアマチュア選手権では『中村』ではなく、ご主人の姓『川口』でエントリーするつもりだ。

《太宰府GC》



